

『 “無理せずに できる範囲で できる時”

～交通安全 いま私たちができること！～』

伊勢原高等学校 PTA 交通委員会

1. はじめに

県立伊勢原高等学校は、昭和3年に私立伊勢原実科女学校として創立し、翌年に伊勢原町立伊勢原高等女学校として開校しました。昭和23年に学制改革により、県立伊勢原高等学校と改称し、同時に定時制課程も併設されました。

校訓は「自立」「友愛」です。社会が大きく変化する中でも、多様な情報を活用しながら自分の価値観を持ち、考えをしっかりと人に伝えられる「自立した大人」へと成長を促し、他者を思いやる「友愛（人間力）」を育み、社会に貢献できる人材の育成を行っています。

また、令和2年度から「インクルーシブ教育実践推進校」の指定を受け、共生社会の実現を推進しています。



4年後に創立100周年を迎える歴史と伝統を継承し、大山の麓に抱かれた豊かな自然の恵に生まれ、明るく伸び

び伸び真剣に全校生徒759名の熱気と歓声が今日もこだましています。



2. 交通安全への取り組み

本校PTAにおいては、交通委員会（委員11名）を組織し、生徒の通学の安全の確保のため地域のご協力を得て、これまで主に次のような活動を行ってきました。

- ・交通安全通学指導（年2回）
- ・自転車の点検（年2回）
- ・委員会だよりの発行（年1～2回）

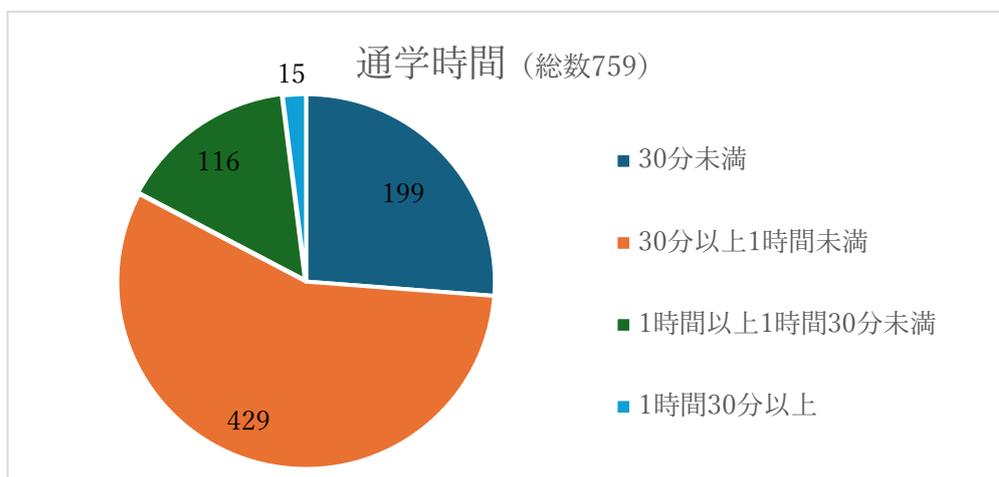
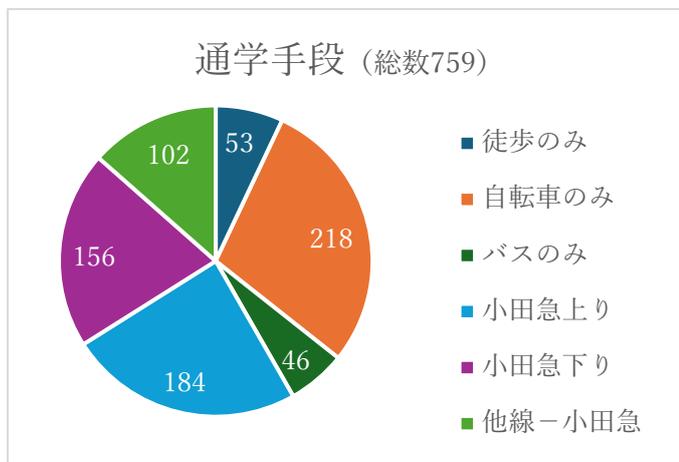
【通学手段】

本校生徒の通学の際の主な手段は、徒歩、電車、自転車です。

全体の6割を超える電車通学の生徒は、小田急線伊勢原駅を下車して、徒歩約15分弱で学校に到着します。

自転車通学は3割弱となっています。実際には少し少ないようですが自転車通学者の多いことが本校の特色です。

また、通学時間でみると、8割弱の生徒が1時間以内に通学可能となっています。



●交通安全通学指導

小田急線伊勢原駅からの通学路の危険箇所等を調査し、要所に委員が立哨して注意喚起やマナーの向上を呼びかけ指導しています。

スマホやイヤホン・ヘッドホン等によるいわゆる「ながら通学」の監視や道路の歩行マナーの指導に加え挨拶運動を実施し、生徒とのコミュニケーションを通じ登校時の事故の防止や環境整備に努めています。

また、校門付近では自転車走行のマナー指導を強化しています。

通学路は住宅街を通り抜け。道幅は狭く、坂道も比較的多いにも拘わらず、登校時には車の通行量も多いのも本校の特色です。



●自転車の点検

「安全な走行は、しっかりした自転車メンテナンスから」を合言葉に通学自転車の整備状況の点検を行っています。

安全な自転車通学のためには交通ルールの遵守はもとより、自転車のメンテナンスは不可欠です。

点検項目…ブレーキ、ライト、反射鏡、ベル、空気圧、車輪、ハンドル、サドル、チェーン、変速機、ステッカー等

年2回のうち1回は市内の専門業者にご協力いただき、プロの目で1台1台丁寧に点検し、要整備車については、黄色の点検票を自転車に張り整備を促しています。

●委員会だよりの発行

活動内容や結果等については、その都度「委員会だより」を作成し、学校ホームページに掲出しています。生徒への周知はもとより、PTA会員である保護者の皆さんに対しての活動報告とともに、これを契機に状況をお子様生徒と共有し、家庭内での交通安全に対する意識の高揚につながることを期待しています

3. 今年度の取り組み

昨年度より本校PTAでは、そのあり方について、スリム化を図るべく組織の再編がなされています。各委員会の統廃合や役員や各委員会の委員数を少数化していく改革が進められてきました。

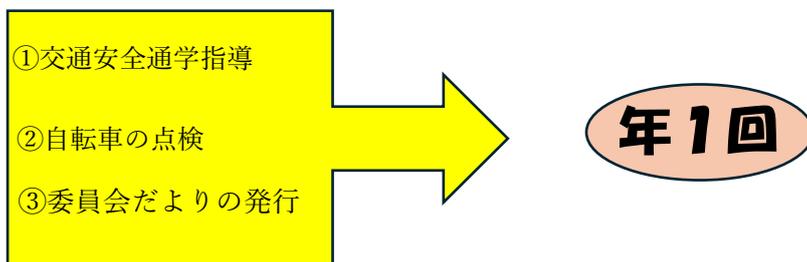
こうした中、交通委員会においても委員数の半減がなされ、原則各学年3名ずつとすることになり、現在の委員構成は、以下のとおりです。

3年生の保護者…6名

2年生の保護者…2名

1年生の保護者…3名

これを受け、委員会活動を見直し、従来の活動を基本としつつも活動頻度の軽減や内容の簡略化していくことにしました。



P T Aの目的が、生徒の学校生活が充実したものになるよう、保護者や教職員が協力してサポートしていくということであるならば、その活動は継続していくべきと考えます。
しかしながら、時代が変化する中、P T Aのあり方、かかわり方は千差万別です。

じゃーどうするの？



これが私たちの出した答えです。

限られた人数で、限られた時間で、無理せず、最低限できることを‘やる’

この活動方針のもと交通安全のための活動を行っています！

●自転車の点検

日時 令和6年6月20日(木)

参加 委員9名

協力 有限会社 瀬尾輪業(伊勢原市)

点検結果

令和6年6月20日

	登録車両	点検車両	整備不良車両	整備報告車両
1 学年	123	61	7	5
2 学年	126	64	9	5
3 学年	136	70	18	9
合計	385	195	34	19



- ・坂道が多いため、電動アシスト付き自転車が増加している
- ・ロードバイク等高級自転車も散見される
- ・学年が上がるごとに整備不良車も増加傾向



●アンケート調査

生徒の交通安全意識や通学状況や課題やニーズを把握し、今後の委員会活動に活かすため、全校生徒を対象に通学に関するアンケート調査を行いました。

4. まとめ

交通事故は、当事者のみならずすべての人を不幸の底に追いやります。科学技術の進歩はめざましく、安全対策は人々の命を守るべく様々な分野で施されています。また、法律も制定・改正がなされ、対象の拡大、義務化や厳罰化が進められています。

しかしながら、依然として交通事故はなくなりません。車のブレーキとアクセルの踏み間違いや逆走、脇見運転や急な飛び出し等のマナー違反、事故の原因の大半は人為的なミスによるものだからだと思います。結局は私たち一人ひとりの意識や行動がそれを招き、それを防ぐことになるのではないのでしょうか。生徒の交通安全を図ることに同じことが言えると思います。

今大会のスローガンである「ルールを守って 命を守ろう！～永遠の無事故を目指して～」それを具現化する取り組みの一つが私たちPTAの活動なのです。ですからそれをやめるわけにはいきません。しかし、時代は移り社会の状況は変わり、人々の意識が変わる中、私たちが期する姿を目にするために、できることをやっていく。「継続は力なり」と言うように、持続可能な方法で実践していくことが重要なのではないかと考えます。

伊勢原高等学校PTA交通委員会の活動が、伊勢高生の自立と安全安心な学校生活の一助となり、ひいては、事故のない社会への実現にわずかながらも寄与すること信じて、これからも“無理せずに できる範囲で できる時”に活動していこうと思います。これが、「いま、私たちにできること」なのですから！

